

ければならぬ。然らば斯がる純粹形式としての規範が例へば貨幣概念の如き存在の内容に由つて實現せらるゝことを求むといふ事實は如何に解すべきであらうか。此問題に對して著者が一般的の解答を試み、當爲と存在、價值と内容との關係を數學の極限概念に由つて解明しやうとせられたのが、今尙本誌の讀者の記憶に新なるべき「極限概念として此の文化價值」の論文であつて、此は本書の中に殘された根本問題の究明を企圖するものといふべきであらう。余は此論文に於て著者の研究の愈々深さに進まるゝを見て更に敬意を新にせざるを得ないものである。

以上述べた所が本書の内容の大體である。終に臨み余は著者に對し其眞意を誤解し、或は其説の本書を顛倒せる如き過無きことを保し得ざるを謝し、尙學界の爲めに其健在を祈りたいと思ふ。

彙報

心理學讀書會

三月十四日午後三時より心理學實驗室にて例會を開く。

○Müller-Freienfels; Studien zur Lehre vom Gedächtnis

深田文學士

○無意識の概念に關する一説

千葉助教

深田君の Archiv für die Gesamte Psychologia XXXIV

Band I, Heft 2 の右論文の紹介にして、氏は、從來、記憶問題が其の知的要素の方面のみに着目せられ感情方面は闕却せられたるに對し Müller-Freienfels 氏が特に此の方面に注目し記憶に三種の區別即ち

(1) Das orientierende Gedächtnis (2) Das reproduktive Gedächtnis (3) Das produktive Gedächtnis を示し、其各に就て説明せる處は興味ありとして其の大要を述ぶ。

千葉助教は The Journal of Philosophy, P. Psychology and scientific Method; XIV, 20. 1719. 2 號をよめられたる Haebelin Hermann K 氏の論文 The concept of the unconscious の要領を紹介したり。

印哲宗教學會

三月二十日午後六時半より文科第九教室にて例會開催。

一、エルサレムの會議に就て 龜谷宥英氏
 一、宗教の本質的要素としての供犠觀念 文學士 赤松智城氏

赤松文學士は先づ如何なる意義にて供犠の觀念が宗教の本質的要素なるかといふことより説き起し、供犠なければ宗教上の儀禮は完成せざるものとし、次にその性質、起原、一般的形式及び種類に就て引證説明せられ、最後に *Sacrifice of God.* に至りて供犠はその究竟の境に達するものなりと述べられたり。

來會者松本、波多野兩教授、日野講師、學士學生二十名。

印度哲學讀書會

三月二十三日午後一時より印度哲學研究室に於て開催、

一、順世外道の學說 本田文學士

Madhva, Sarvadar, Visvanatha を中心として印度快樂主義の代表的學派たる順世外道の論理的主張とその思想の紹介。

新著紹介

現代日本人の信仰

文學士 飯沼龍遠 著

回顧すればスターバック教授が其「宗教心理學」を公けにせられてから、既に十年の歳霜を経過した。今氏の影響の下に極東の地に英俊の好著を産出するを見て其響應するところの頗る大なるを感ぜずには居られない。有體には余はス氏の彼の著の學術的價值につきては今尙疑問の裡に彷徨する者である。又其著が所謂世界的名聲を克ち得たにつきては其研究を指導せられたスタンレーホール、ジヨルダン兩教授及び單行本として出すに當つて極めて同情ある紹介の勞をとられたゼームス教授等の威望に負ふところ多きと、又一は該書が「現代學術叢書」の一として發表せられたこととの二つの事情が其自身のあるがまゝの價値を一層高むるの目となつたのは、疑を容るゝ餘地のない事實であると信ずる、此事の余が曲解でないことは氏が彼の著を公けにすると間もなく幾多の非難抗論が起り、事實記載の研究に殆んど稀に見る奇觀を呈した、甚しき論難の中にはス氏の純正なる客觀的資料其者すら實は故意の作爲に過ぎないと云つたものがある程である。而して此非難紛出のためでもあるまいけれども泰西諸國に於ても獨逸西南學派の一部（人には奇異に感ずるであらうが、實はス氏はゼームス教授の門生で、又ゼームス教授の「宗教經驗の諸相」には屢ス氏